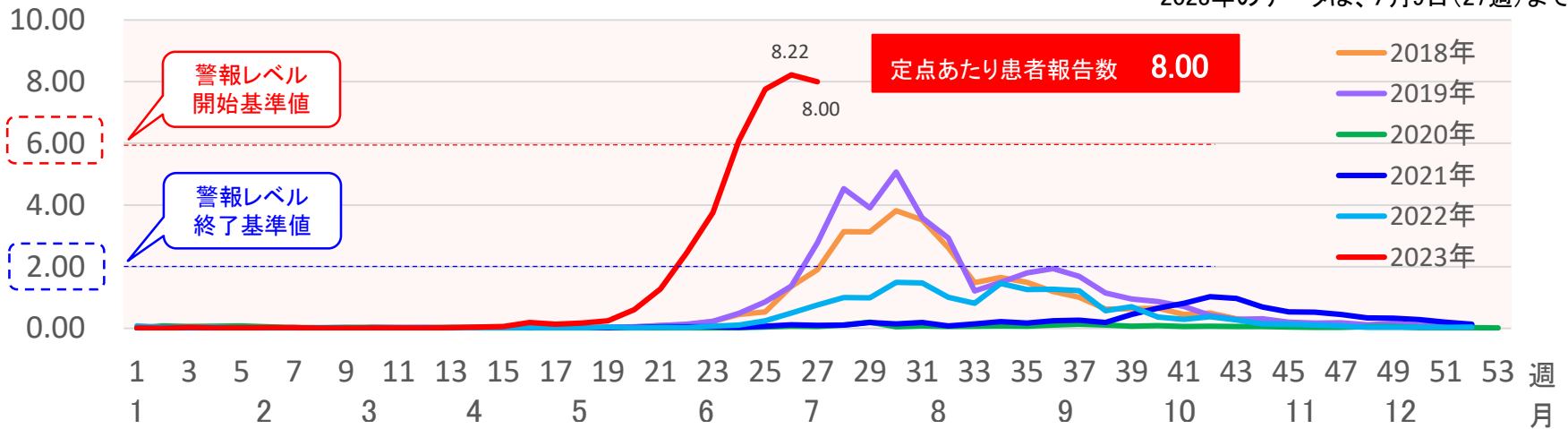


ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症の状況

●ヘルパンギーナの週別定点あたりの患者報告数(都内)

警報レベル基準値内

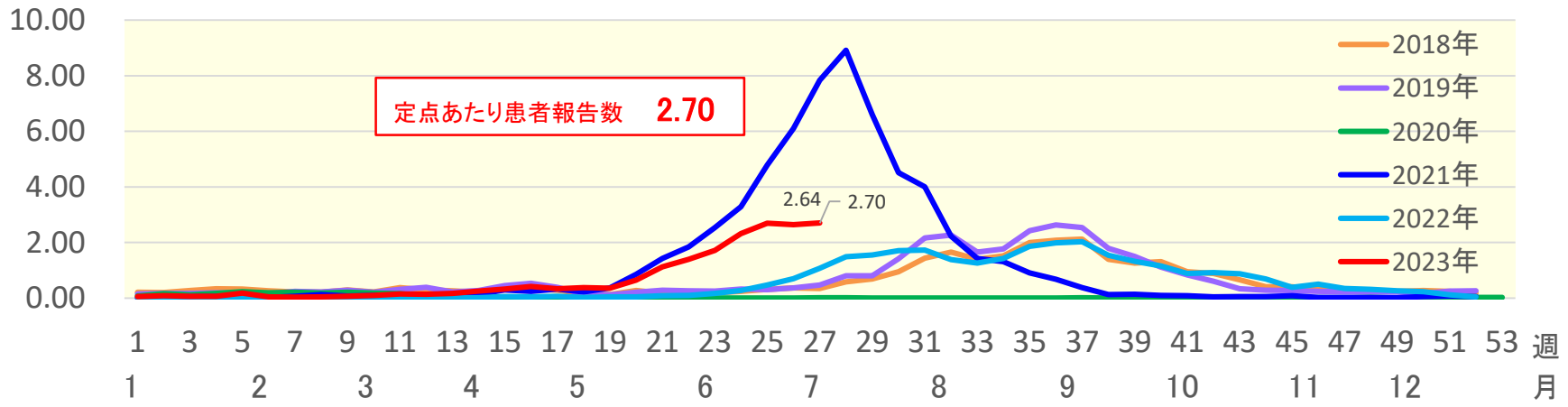
2023年のデータは、7月9日(27週)まで



●RSウイルス感染症の週別定点あたりの患者報告数(都内)

※ この感染症に警報レベル等の基準値はありません

2023年のデータは、7月9日(27週)まで



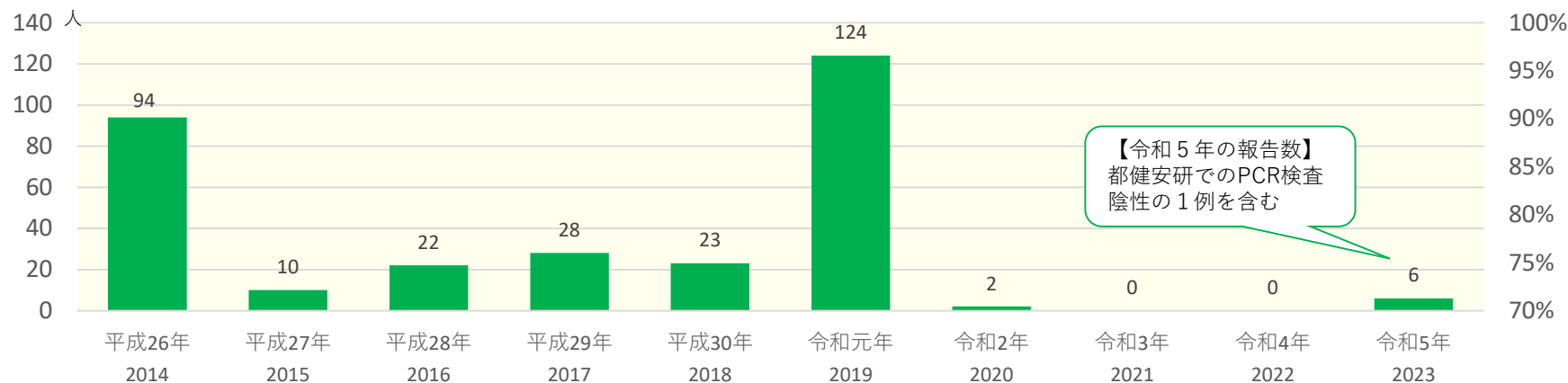
引き続き、基本的な感染対策の徹底を呼びかけ

麻しん（はしか）・風しんについて

都内における麻しん・風しん患者の状況等

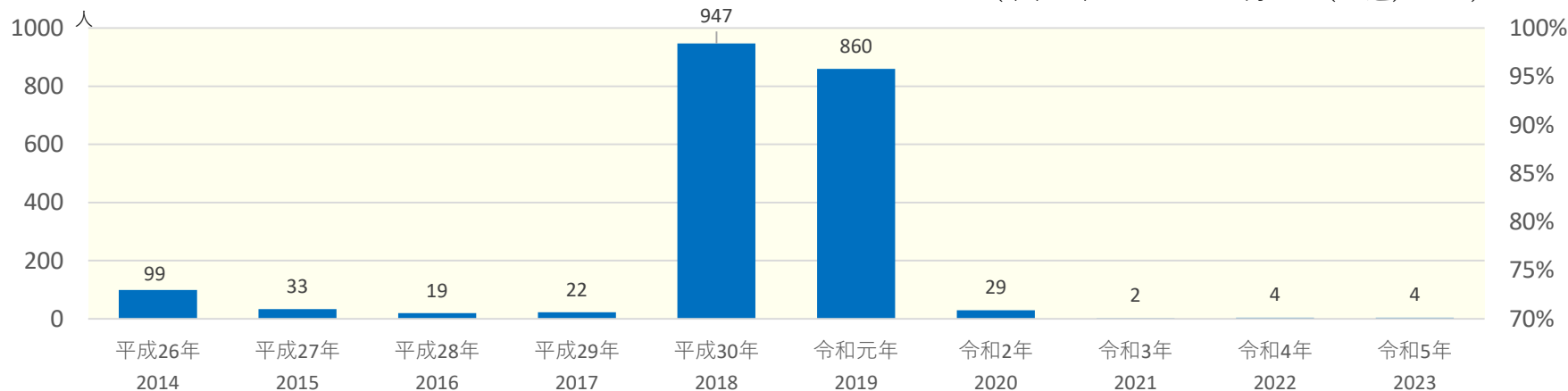
● 都内における麻しん患者の発生状況の推移

(令和5年のデータは7月9日(27週)まで)



● 都内における風しん患者の発生状況の推移

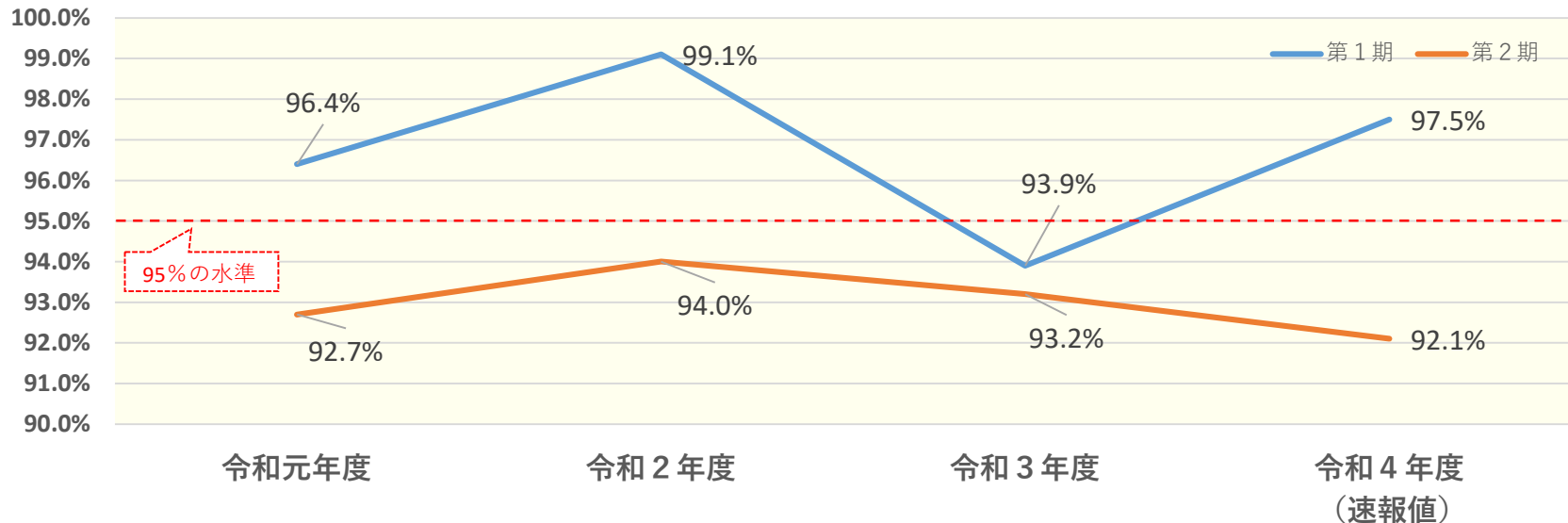
(令和5年のデータは7月9日(27週)まで)



麻しん（はしか）・風しん - MRワクチン接種状況等 -

都内のワクチン接種状況（MRワクチン）

- 麻しん・風しんの流行を防ぐには、第1期（1歳以上2歳未満）、第2期（小学校入学前の1年間）の2回接種が必要で、ともに95%以上の接種率を保つことが望ましい



都内のワクチン接種状況（現状と対策）

- 第1期（1歳以上2歳未満） 令和4年度の接種率は97.5% 95%以上の水準を担保
- 第2期（小学校入学前の1年間） 令和4年度の接種率は92.1%
令和3年度よりも減少かつ令和以降最も低い接種率

接種率向上（特に第2期）の普及啓発が必要

麻しん（はしか）・風しん対策 – 夏の集中的な取組 –

麻しん風しん定期接種 接種率向上の取組

① 麻しん風しん対策会議の開催（8月）

- 【目的】 接種率の向上及び効果的な普及啓発の推進を図る
- 【構成委員】 東京都医師会、医療機関、行政機関（都・特別区・市町村）
その他予防接種、地域保健、医療、教育、保育等の関係者
- 【主な議題】 麻しん・風しんの発生状況、都の麻しん・風しん対策等

② 啓発資材の作成「2回の定期接種を受けるよう呼びかけ」

区市町村等と連携し、就学時健康診断や学校説明会等を活用した啓発

<啓発資材イメージ>



風しんの追加的対策 抗体検査と予防接種の呼びかけ

・1962年4月2日から1979年4月1日生まれ（満44歳～61歳）の男性は、公的に予防接種が実施されていないため、風しんに罹患した場合、周囲に広げてしまう恐れあり

① 交通・駅広告（東京メトロ、都営地下鉄での配信を予定）

視聴、閲覧が多く見込まれる交通広告を活用し広く訴求

② 動画広告（YouTubeでの配信を予定）

ターゲット設定により、対象者や関心層に直接訴求

【広告実施期間】 7月下旬から8月上旬

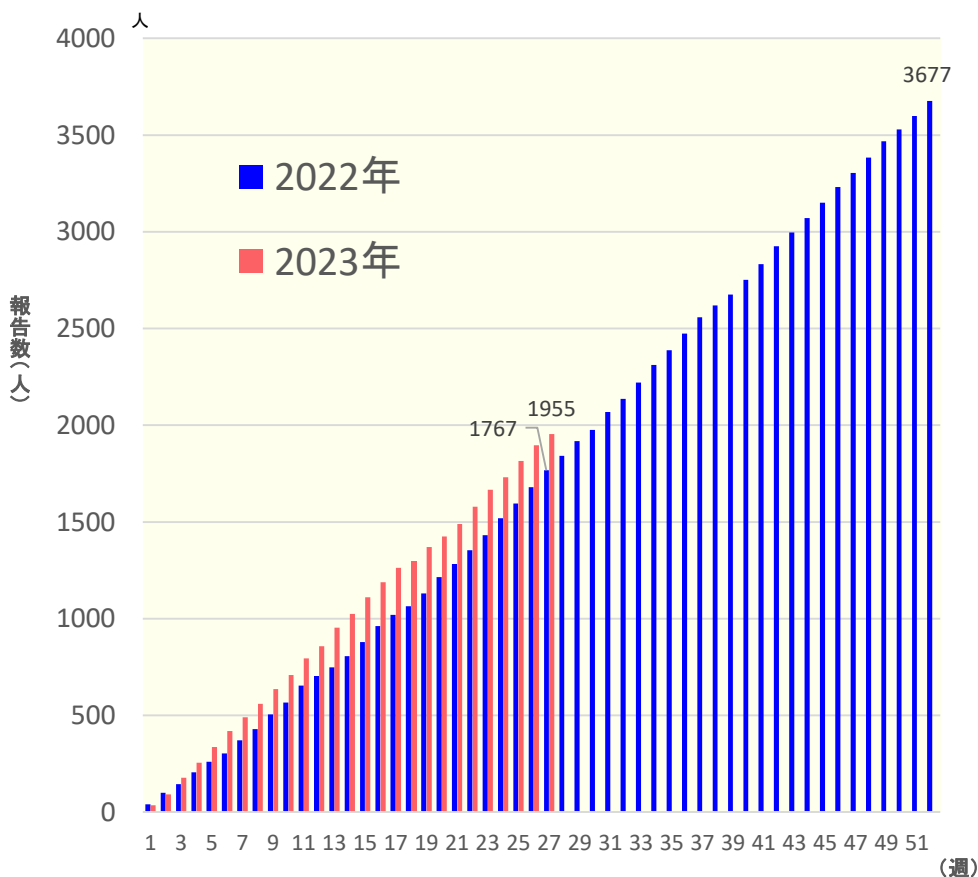
<動画広告イメージ>



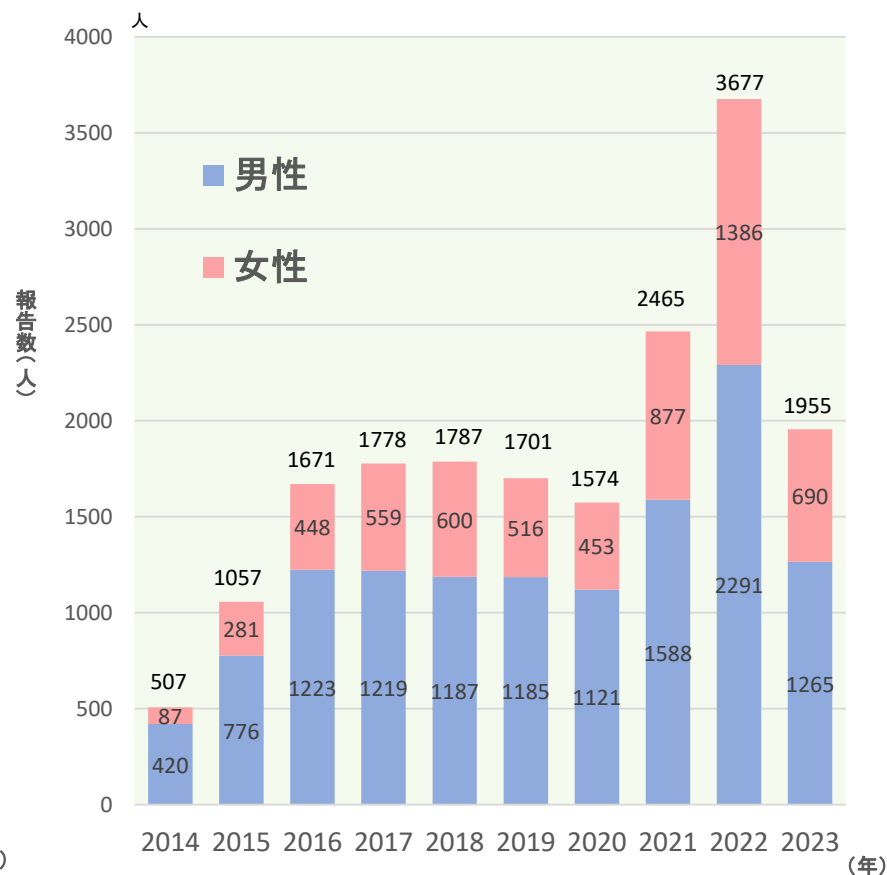
梅毒の発生状況について（都内）

- ・ 都内の2022年の報告数は3,677件で、2021年の報告数2,465件の約1.5倍
- ・ 都内の2023年の報告数は、7月9日時点で、1,955件（昨年同時点比約11%増）

東京都の感染状況（週報） ※ 2023年のデータは7月9日（27週）まで



東京都の感染状況（年報） ※ 2023年のデータは7月9日（27週）まで



梅毒対策の強化について

● 検査体制の拡充

- ① 多摩地域検査・相談室（立川） ※ 事前予約制
多摩地域初の日曜日検査を、土曜日に加えて実施
8月中旬から毎週
- ② 新宿東口検査・相談室（歌舞伎町） ※ 事前予約制
女性を対象とした、即日検査を新たに実施
令和5年9月～令和6年3月まで 月1回（祝日）

● 普及啓発

夏休みシーズンの予防意識の向上や早期発見を促すための取組を実施

- 交通広告やサイネージを活用した集中PR
公共交通機関や繁華街のサイネージ等で啓発動画を放映
- インターネット、SNSでの広告
ターゲット広告により、若年層や関心層に直接訴求
- マンガを活用した啓発
若者に人気の漫画形式の投稿による訴求



交通広告・マンガのイメージ



※ 詳細は後日発表予定

ダニが媒介する感染症

ダニ媒介感染症とは

- ・ 病原体を保有するダニ(主にマダニ)に刺咬されることによって起こる感染症
- ・ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病等の感染症は、国内での感染事例が報告されており、重症化した場合は死に至ることもある
- ・ 死亡事例が判明した「オズウィルス感染症」は、マダニが媒介した可能性

マダニについて

●マダニの概要

- ・ 成虫は体長が3～8mm程度
(アレルギーの原因となるチリダニや、夏場に室内で刺されて痒くなるツメダニとは違う種類)
- ・ 吸血し、飽血(満腹状態)になると、10～20mm程度の大きさになる

●マダニの生息地等

- ・ 日本全国に広く分布
- ・ 野生動物が生息する自然環境が豊かな場所(草むら等)に多く生息
- ・ 市街地周辺でも自然が豊かであれば、畑やあぜ道などにも生息
- ・ 春から秋にかけて活動が活発、温暖な地域では冬でも活動



マダニの成虫(吸血前)



マダニの成虫(吸血前・後)

ダニが媒介する感染症 - 国内・都内での感染事例等 -

最近の国内感染事例

国立感染症研究所ホームページ及び各自治体報道発表資料より作成

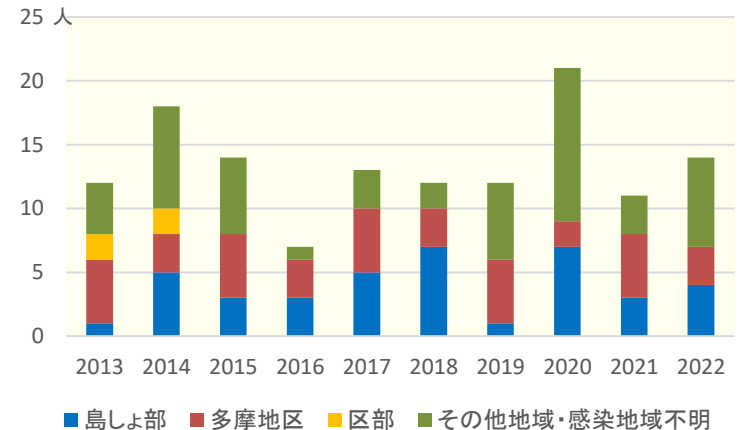
- **重症熱性血小板減少症候群(SFTS)** (マダニが媒介・都内での感染例なし)
 - ・ 西日本を中心に報告されていたが、令和3年には静岡県での報告例あり
 - ・ 平成25年に国内初の死亡例報告 令和5年5月熊本県で40代男性が感染・死亡
- **日本紅斑熱** (マダニが媒介・2010年以降都内報告例なし)
 - ・ 令和5年5月広島県で70代女性が感染・死亡
- **つつが虫病** (ツツガムシが媒介・都内での感染報告あり)
 - ・ 令和5年6月青森県で80代女性が感染・死亡
- **オズウイルス感染症** (マダニが媒介した可能性)
 - ・ 令和4年に茨城県で死亡した70代女性がオズウイルス感染との報告
ヒトでの発症や死亡の報告は世界で初めての事例(令和5年6月発表)

国内の広い範囲で
感染・死亡例の報告



都内におけるつつが虫病の発生状況等

- 近年のつつが虫病の発生状況は、島しょ部と多摩地区で同程度の件数
- 都では、つつが虫病等のダニ媒介感染症を疑う場合は、健康安全研究センターで、国立感染症研究所の基準に準拠した検査体制を構築



ダニが媒介する感染症 - 予防と対策 -

治療・対策

○治療法(SFTSの場合)

有効な抗ウイルス薬等の特別な治療法はなく、対症療法が主体

○予防・対処方法

・ダニに刺咬されないこと ポイントは

農作業やハイキング等で山林等に入る場合は、**長袖・長ズボン**を着用し肌の露出を控える

・マダニに咬まれたときは、無理に引き抜こうとせず、医療機関での処置が大切

・発熱などの症状がみられた場合は、医療機関での診察を受け、下記内容を医師に伝えることが重要

- ① 野外活動日時
- ② 場所
- ③ 発症前の行動



ひとくち

感染症情報

2023年7月 日
東京都健康安全研究センター

ダニが運ぶ感染症に注意



どんな病気？

ダニに咬まれることによって感染するダニ媒介感染症には、「つつが虫病」「日本紅斑熱」「ライム病」「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」「ダニ媒介脳炎」などがあります。ダニによる感染症の多くは、咬まれたあと数日から数週間以内に発熱や頭痛、関節痛、リンパ節の腫れなどの症状が現れます。重症熱性血小板減少症候群(SFTS)では、意識障害や出血症状が現れ重症化する場合があり、日本での致死率は25~30%といわれています。

※ここでの「ダニ」には、屋内で生息するコナダニ類、チリダニ類などは含まれません。

どうやってうつるの？

ダニに咬まれることによって感染しますが、すべてのダニが病原体を持っているわけではありません。ダニは日本全国に分布しています。特に野生動物が生息する自然環境が豊かな場所に多く生息しますが、市街地周辺でも自然が豊かであれば、畑やあぜ道などにも生息していることがあります。

どうやって防ぐの？

ダニは人間以外にも野生動物やイヌ、ネコも吸血します。山林などに多く生息し、庭や畑、あぜ道などにもいますので、農作業やハイキングなどで山林に入る場合は、ダニに咬まれないように長袖、長ズボンを着用し、肌の露出を控えましょう。また、服にダニが付いた場合に確認しやすいよう明るい色の服を着るようにしましょう。

明るい色の服を着る
(服にダニが付いた場合
確認しやすいため)

首にはタオルを巻くかハイ
ネックのものを着用する

長袖を着用し、袖口は
手袋の中へ
シャツの裾はズボンの
中へ

ズボンの裾は長靴の中へ
シューズの場合はズボンの
裾に靴下をかぶせる



マダニに咬まれたら？

マダニに咬まれたときに、虫体を無理に取り除こうとすると、病原体が体内に入ったり、皮膚の中に虫の一部分が残ることがあります。無理に自分で取り除こうとせず、医療機関を受診しましょう。また、マダニに咬まれた後、数週間は体調の変化に注意し、発熱などの症状がみられた場合も医療機関を受診しましょう。



無理に自分で虫体を取り除かず、医療機関の受診を！！

